## 3-11 1984年9月19日房総半島南東沖の地震

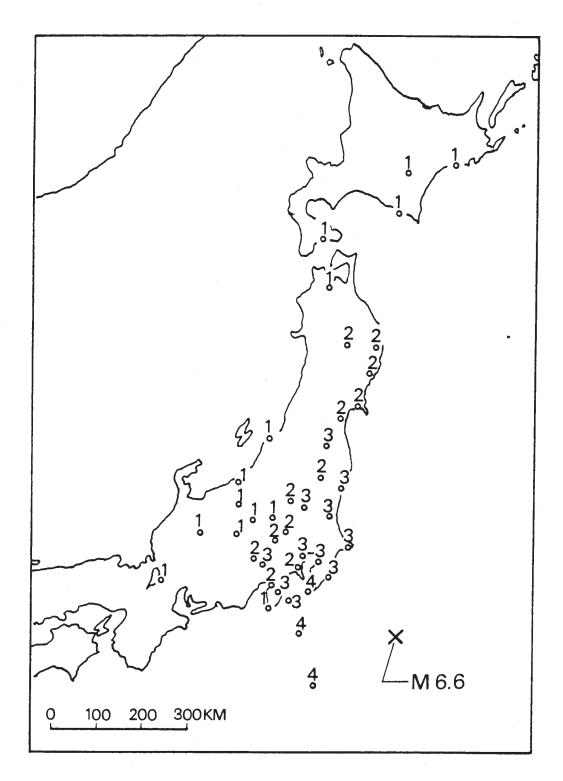
The Earthquake off Southeast Coast of the Boso Peninsula, September 19, 1984

気象庁地震予知情報課 Earthquake Prediction Information Division Japan Meteorological Agency

9月19日02時02分頃房総半島南東沖(34°03.1'N, 141°33.1'E, H=13 km, OT=02 $^{\rm h}$ O2 $^{\rm m}$ 41.6 $^{\rm s}$ )で M6.6 の地震が発生した。

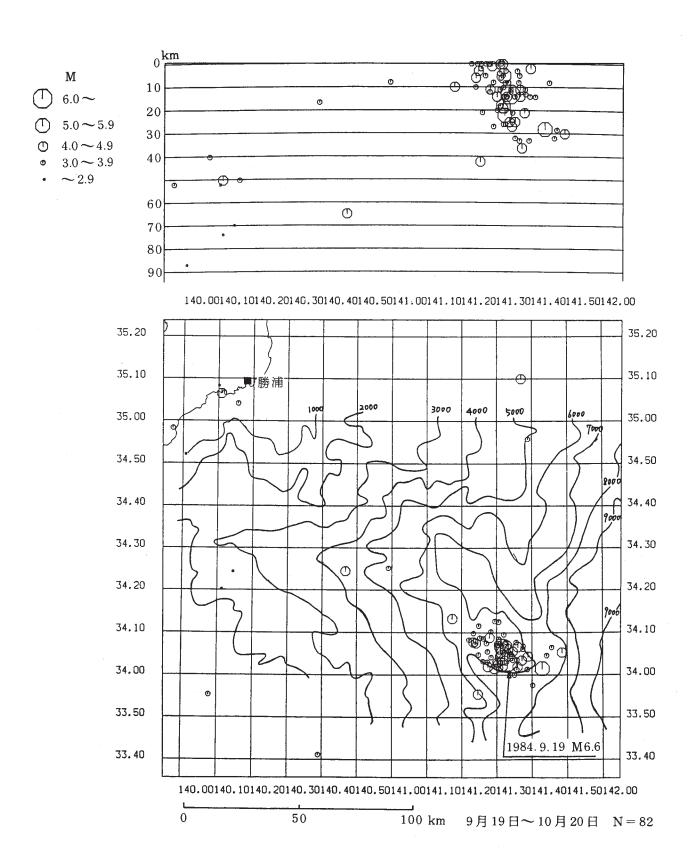
第1図に震央および震度分布を示す。館山、三宅島、八丈島で震度4であったのをはじめ、中部地方中部を境に北は東北地方、北海道の太平洋岸で有感であった。第2図に本震および余震の震央分布とその断面図を示す。観測点が遠く離れており震源精度の問題があるが、余震域は北西-南東方向に約35km、幅約15kmの範囲で、震源は東側へ深くなっている。第3図は余震の日別回数である。本震の直後地震が少なかったが、2日後の21日にはM5クラスの地震3回を含め回数も100回を越えるなど、余震の起こり方に特徴的な傾向がみられた。第4図は今回の地震のメカニズムと安藤(1971、地震学会秋季大会予稿集)による1953年11月26日の房総沖地震のメカニズムである。今回の地震でも1953年の地震とよく似た解が得られた。

第5図は房総沖における1926年以降のM5.5以上の地震の震央分布とM-Tプロットである。今回の地震は1953年の房総沖地震とほぼ同じ場所で発生した。この地域(図に示すb地域)での過去の地震活動をみると、1953年の地震以後1971年までM6.0以上の地震はなかったが、1972年の2月と12月の八丈島東方沖の地震など最近はM6.0以上の地震がやや多くなっている。またこの地域の西側のa地域でも、1974年以後伊豆半島沖地震などM6.0以上の地震が多く発生、活動が活発になっている。



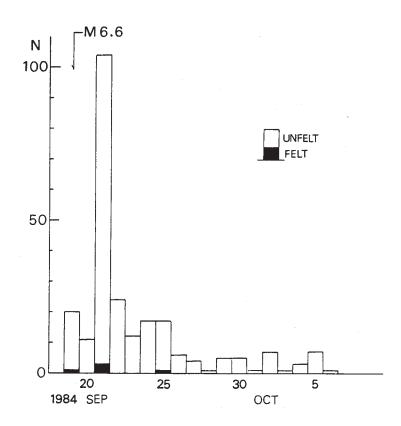
第1図 1984年9月19日房総半島南東沖の地震の震度分布

Fig. 1 Distribution of seismic intensities for the earthquake off southeast coast of the Boso Peninsula, September 19, 1984.



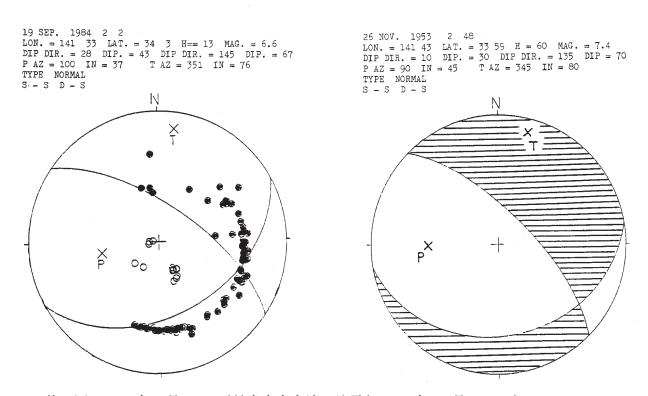
第2図 1984年9月19日房総半島南東沖の地震の余震分布

Fig. 2 Epicenter distribution of aftershocks of the earthquake off southeast coast of the Boso Peninsula, September 19, 1984,



第3図 1984年9月19日房総半島南東沖の地震の日別余震回数 (鎌田の地震計による)

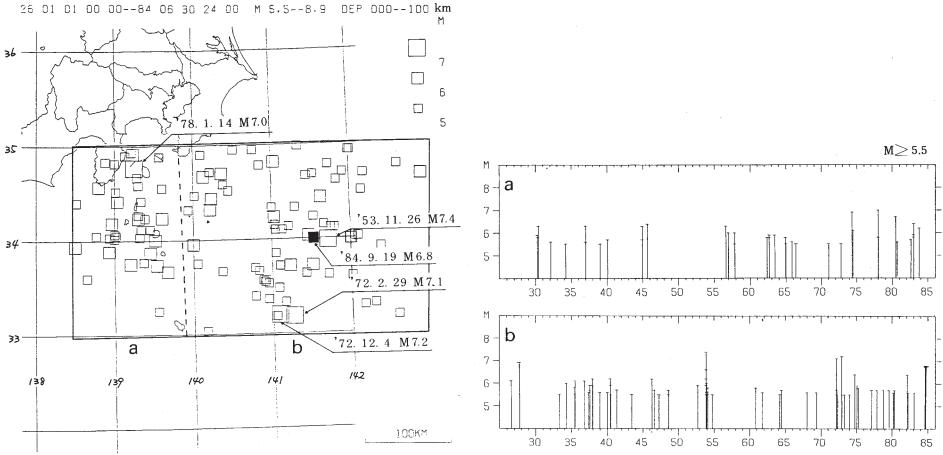
Fig. 3 Daily number of aftershocks of the earthquake off southeast coast of the Boso Peninsula, September 19, recorded at Kamata.



第4図 1984年9月19日房総半島南東沖の地震と1953年11月26日房 総沖地震のメカニズムの比較(上半球投影)

Fig. 4 Comparison of focal mechanisms of the earthquake off southeast coast of the Boso Peninsula Occurred on September 19, 1984 and November 26, 1953. (projected on upper hemisphere)





第5図1926年~1984年の房総半島沖の地震活動(M ≥ 5.5)

Fig. 5 Seismic activity in the region off the Boso Peninsula, 1926 - 1984 (M > 5.5).